

会では天覧山周辺の自然に親しんでいただくために毎月「ふる里散歩」を開催しています。興味深い企画や楽しい企画がめじろ押しです。どうぞふるってご参加下さい！！

ふる里散歩

6/26日「ほたるのタベ」の巻

今年もまた幻想的なホタルの光に出会えるといいな…。夜の山道を歩く事も素敵な体験ですよ。(要申込み 先着30名)

集合/能仁寺山門前 午後7時

持ち物/長靴・懐中電灯

参加費/大人300円 子ども100円

問合せ・申込み先/042-974-1691 (浅野)

7/17日「虫ムシ探検隊」の巻

国蝶オオムラサキを見てみよう！(要申込み 先着20名)

集合/飯能市郷土館 午前9時 終了12時頃

持ち物/サンダル・半ズボン不可。

服・帽子は蜂対策で黒色は不可。

参加費/200円 (小学3年生以下は保護者同伴)

申込み/さいたま緑のトラスト協会

048-824-3661 (7月1日以降)

8/7日「名栗川を歩いてみよう」の巻

川を歩くことって、普段あんまりないですよね…たまにはぐっと低い視線から自然に向き合ってみませんか！(申し込み不要)

集合/能仁寺山門前 午前9時半

持ち物/川を歩ける服装(運動靴で) 着替え・

飲み物・お弁当

参加費/大人300円 子ども100円

9/11日「秋の草花観察会」の巻

足下の小さな草花に秋の気配を感じながら山を歩いてみませんか！(申し込み不要)

集合/能仁寺山門前 午前9時半

持ち物/飲み物・お弁当

参加費/大人300円 子ども100円

[各回共通] *雨天中止 *共催/はんのう景観トラスト、(財)埼玉県生態保護協会飯能名栗支部、はんのう市民環境会議]

「ほとけとじょうの里」での作業

作業は基本的に、毎月第2日曜日と第4日曜日の午前10時～午後3時頃までです。

現地に直接集合し、水路や敷地の整備、シイタケ栽培、ミツバチの飼育、自然観察、石窯に火入れしてのパン作りなど多様な活動を、思い思いに、また協力しあいながらしています。どなたでも参加できます。是非ティビ(アメリカ先住民のテント)が目印の「ほとけとじょうの里」を訪ねてください！

*作業できる服装・長靴・お弁当(パンやピザ

などの材料を持ってきて石窯で焼くと楽しいですよ！)などをご持参ください。

*雨天の場合は中止です。天候がはっきりせず迷われた時はお問い合わせください。

●連絡先 042-977-1890 (早瀬)
hayase3.cat@orange.zero.jp

●活動日：今後の予定
6月26日(日) 7月10日(日)・24日(日)
8月14日(日)・28日(日) 9月11日(日)・25日(日)

やませみ

60

発行日/2011年6月10日

編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)

埼玉県飯能市柳町18-17

●機関誌「やませみ」は「銀河堂」「丹三郎」

「ロビングッドフェロー」にあります。

●「やませみ」へのご意見をお寄せください。

投稿もお待ちしております。

URL=<http://www.tenranzan.com/>

E-mail=tenta@tenranzan.com



会員募集中!!

1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

*年会費 ●正会員—普通会員2,000円 特別会員10,000円
●賛助会員—1口10,000円

*会費・カンパ送り先 ●郵便振替口座 00580-9-16342

「NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会」



NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

No. 60

2011.6.10

やませみ

のろろ歩き足跡に
一歩も二歩もなく
ただ続く営みが
光る道竹朧も
つけてゆくだけ
ただあとに来るものが
道も見誤らぬように



もくじ

- 60号に寄せて～会員からのメッセージ～
- 環境省モニタリングサイト1000里地調査
- ふる里散歩
- 東やつを楽しもう!

天覧山・多峯主山の自然を守る会H/P <http://www.tenranzan.com/>

会報「やませみ」も遂に60号目の発行となりました！
そこで、今回は特別にカラー印刷とし、会員の方々に小文を寄せていただきました。

次世代に残したい自然

今般の東日本大震災に被災されました皆様に心よりお見舞い申し上げます。

16年前、天覧山裏山一帯の大規模住宅地開発計画の変更を求める当会の運動を知らせる会報の名称を考えていました。当時ヤマセミという野鳥の存在すら知らなかった私でしたが、たまたま飯能河原河川敷において、採餌のためのダイビングに遭遇したのです。鳩ほどの大きさで白黒まだらの地味な模様だが立派な冠羽を持っているヤマセミでした。バシャーンという大きな音をたてて川へ飛び込むそのド迫力に驚嘆したのを今でも思い出します。

会報の名称を「やませみ」として創刊した1995年は、奇しくも阪神淡路大震災が起った年。あれから天覧山・多峯主山一帯の自然環境崩壊の危機は10年続きましたが、「飯能の宝として残したい」という一念を持ち続け行動してきた結果、現在「天多の森」として里山の保全と再生が進んでいます。

せっかく残った森も、放射能に汚染されてしまったらと考えると絶望的な気持ちになってしまいます。改めて私たちのライフスタイルを見直し、次代に確実に手渡せる美しい日本の環境を守りたいと願うばかりです。

てんたの会代表 浅野正敏

今、求められる生物多様性の保全

この春、天覧山周辺の里山は静かな新緑を迎えています。谷沿いから毎年聞こえてくるはずのヤマドリ羽音、ヤブサメやキビタキ、クロツグミの囀りがほとんどありません。田んぼ作りした水路でも、昨年はたくさん見られたトウキョウサンショウウオの卵塊が今年は一つも見られませんでした。生きものが減ってきているのです。

その原因の一つが盛んに行なわれている間伐事業です。間伐する前にアラカシやヒサカキ、ヤブツバキ、ヤマツツジなど中・下層の植生を根こそぎ伐採して間伐作業を行なうため、多くの生きものたちの棲家を奪っているのです。今回の間伐では「景

観緑地自然環境調査」の調査結果も反映されず、県の条例指定種を含む多くの希少種が間伐の下敷きや重機に潰されたり、或いは日陰を好む植物などは極端な環境の変化によって枯死してしまいました。増やし過ぎたスギ・ヒノキの人工林は自然林へと樹種の転換を図ることは必要ですが、大切なことは、本来その地域にあるべき潜在的な自然植生を見極め、計画的に残し育てむということです。飯能にしかない植物・動物など多様な組み合わせの遺伝子資源を後世に残し伝えていくことは、私たちの責務ではないでしょうか。

天覧山タカ渡り観察グループ代表 市川 和男



東谷津レポート奮戦記

天覧山・多峯主山周辺の里山の状況を、てんたの会の公式HPに載せ、今どうなっているのかの生きた情報をリアルタイムに知らせる目的で始めた。既に、3年が経過し、やがて100回を迎える。はじめのうちは、野草や木々の花、果実やほとけじょうの里の活動を中心にやりだした。草花の写真を撮っていると、そこには必ず何らかの虫がいて、それぞれが独自の生活をしていることに気付いた。あるものは蜜や花粉を集め、あるものは狩りをする。恋をし生命を宿す。興味はその虫達に移り、生態を撮らえることが中心の題材になった。題材を求めて、草原に分け入り、山を越え谷に降り沢に入る。春夏秋冬、初対面の虫に出会い、天多の森の昆虫の多様性にはいつもおどろかされる。そんな天多の森はここ数年で大間伐が行われ、虫達の社交場となっていた花をつける多種の低木は下刈りされ、住環境が大きく変わってしまった。野草、両生類、昆虫等の生物がどのように復活して行くのかレポートを続けるつもりだ。

東谷津レポート担当 山梨光明



虫たちの小さくて偉大な世界が天覧山・多峯主山に広がっている。写真/山梨光明（東谷津レポートより）
左から：
・アキノタムラソウの蜜を吸うルリモンハナバチ。
・ノダケの花を食べるキアゲハの幼虫。
・トビナフシ：不作法に近付いたら脱まれた。背中に小さな翅をもち飛ぶことが出来る。
・ハルジオンの蜜を吸うジュウジナガカメムシ。
・アカガネサルハムシ：陽光を浴びると虹色に輝く美しい虫だ。
・卵を保護するエサキモンキツノカメムシ。

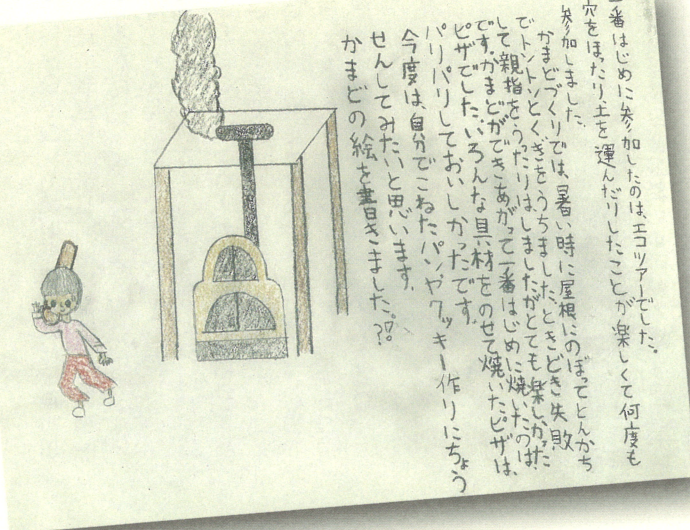
てんたの会とホームページ

1988年に当会のホームページ(H/P)を提案し管理を任された。今では市民団体でも当然のようにあるH/Pだが、当時はそれほどパソコンも普及しておらず、どれほど宣伝効果があるのかという疑問の中での門出だった。▼金も手間も掛からず多数の市民に閲覧できる良さがある反面、不特定の人に閲覧され、誤解や偏見が生まれてしまう可能性もある。ましてや当会は特定企業に対して保全を働きかける団体である為、慎重に言葉を選び、時間をかけてH/P立ち上げにまで漕ぎつけた。▼従来のイベント情報や会報誌「やませみ」の掲載のほか、てんた周辺の自然の様子をきめ細かく、写真とともに、タイムリーに伝える「東谷津レポート」の連載も始まり、よりH/Pが充実し、アクセスも一気に増えた。▼情報発信・受信の基地として、また市民からの意見や質問の窓口として、H/Pがますます大切な役割を担っている。 天覧山・多峯主山の自然を守る会H/P <http://www.tenranzan.com/>

H/P担当 秋郷伸一

かまどの絵を書きました?!

下程 悠 (10才)



飯能の山里で暮らしながら

1977年、飯能の山里に住み始めた。当時、天覧山・多峯主山周辺は団地開発の真っ只中で私も「天覧山周辺の自然を守る会」に参加し、保全活動をスタートさせた。この活動は開発地の縮小とホテルの里を中心にした市民公園案を生み出したが、開発を止める事は出来なかった。

しかしその後20年程休眠していた団地開発が再スタートし、同時に生まれたのが「天覧山・多峯主山の自然を守る会」だった。今度は本当に多くの市民の深い願いとねばり強い協力と持続によって、開発は完全にストップした。そして今、市民と市と企業による自然公園づくりが少しずつ実現している。

私は地元でこんな活動を続けながら、また一方で平和憲法を守ることと脱原発を求める行脚「命の行進」に参加してきた。3月11日の大震災は、3年続けて歩いた東日本で起こってしまった。今年は慰霊と再生への祈りの行脚となる。私もこれを歩きたいと思っている。

会員 早瀬成憲

里山運動への一試案

生物多様性の観点から見て、原生の自然より適度に人手の入った所の方が多様性が高くなるのは、周知の事実である。本会はすでに自前の棚田を所有している。そこで、ここにさらに強くかつての農村を再現させる施策を試みてはどうだろうか。まず、昆虫誘致を目的とした植栽を提案したい。

たとえば、秋、田圃にレンゲの種子を撒く。田の周囲には、アブラナとコスモスを密植する。野草木としては、オカトラノオ、ノダケ、ハナウド、イタドリ、ヒヨドリバナ、ヤマハギ、ヌルデ、クサギなどがよい。最もよいのはヤブカラシである。梅雨入り前から晩秋まで、蝶、蛾、蜂、甲虫、カメムシ、アブ、ハエ、またこれらを狙うカマキリ、クモなどが多数集まる。ヤブカラシはふつう目の敵にされて駆除されるが、私の家では一部駆除、一部保存している。池袋駅から6.5kmの練馬区の狭い庭だが、蝶だけで年間26種以上を楽しんでいる。

駿河台大学名誉教授 内田康夫



イラスト/内田康夫

五月の日に

青空に、木々の緑が風に揺れ光っている。五月のこの風景がすきだ。だが今年は違っていた。原発事故で飛散し続ける放射能の存在が、意識の中に入ってくるからだ。

四月初め、私は放射能測定器を手に入れた。測定してみると公表されている数値よりいつも高い。県庁に測定場所を問い合わせると四階の屋上だった。「人が生活する空間で測って下さい」と伝えて電話を切った。

山の中を歩いていて、ふと感じることがある。ヒトを含めた多様な「生」が在って、自分はただその中で生きているだけにすぎない、と。

選択権を持った唯一の動物はヒト。物言えぬ動植物は、汚染された雨に濡れ、汚染された大地で生きている。

会員 木崎久美子

モニタリング1000調査交流会に参加して

本年2月26～27日、福井県敦賀市で、モニタリング1000調査の現地見学会、発表会、交流会が開催され、高速増殖炉「もんじゅ」の見物がてら参加してきました。

ここには中池見(なかいけみ)湿地という学術的に貴重な低層湿原があり、ガス会社がLNG備蓄基地を建設しようとしていたのを地域住民が反対し、現在は保全されています。市街地に近く、天覧山と似たような状況の緑地ですが、ここでは8種類のモニタリング調査を行っています。



初日は現地見学で、湿地の端を国道が通っているため外来種が入り込みつつあるとのことです。調査を担当しているNPO法人の女性メンバーが元気で、活動を底で支えているという印象を持ちました。

翌日は、中池見の調査発表会と、全国から集まった調査サイトの交流会で、天覧山の調査結果を発表してもらいました。モニタリング1000調査を設計した専門家の先生も参加されたので、調査の疑問点などを直接聞くことができ、大変参考になりました。

「もんじゅ」が見渡せるダイヤモンドビーチは、名前に反して海の不法投棄ゴミだらけの浜ですが、多くの人がサーフィンを楽しっていて、なんかシュールな光景でした。

会員 大石 章



モニタリングサイト1000

天覧山・多峯主山地域は「環境省モニタリングサイト1000里地調査地域」に指定され、当会ではこの地域で、下記項目について調査を行っています。100年間の自然の移り変わりを見つめる作業です。どなたでもご参加いただけます。日程等詳細については当会ホームページをご覧ください。な、下記までお問い合わせください。

ホテル類調査・・・6月下旬～7月 夜間

当地周辺に生息するホテル類のうち、ヘイケボタル、ゲンジボタルの2種を発生時期、発生数を日毎にカウントして、年毎の変化を把握しようとする調査です。予め設定した調査エリア内で、発光しているホテルの数を、種類別にカウントしていきます。今年は卵の様子も調べてみようかと張り切っています。必ず長靴を履いてきてください。

植物相調査……通年 毎月11日、8：30能仁寺山門集合

チョウ類調査……3月～11月 第1土曜日、

10：00能仁寺山門集合（晴天のみ）

カヤネズミ調査……6月、11月(年2回)

カエル類調査……2～3月毎週土曜日 午前10時～12時頃

【調査全般の問合せ先】

大石 ezh01701@nifty.com

黒住 robensou.bird@orange.zero.jp

※環境省モニタリングサイト1000（モニ1000）・・・環境省が全国に1000ヶ所程度のモニタリングサイトを設置し、基礎的な環境情報の収集を長期にわたって継続して行い日本の自然環境の質的、量的な変化を早期に把握するための調査です。